

夢

情報工学科3年 大石 舞

私には夢がない。

勿論、幼い頃には「歌手になりたい、ケーキ屋さんになりたい、漫画家になりたい・・・」それはもう沢山、可愛い夢をポケットいっぱい詰め込んでいたはずだ。

しかし、今はどうだろうか？

私は、ポケットのどこを探したところで、本気で目指したいと思う夢を見つける事はできない。

そんな中、気付くと私は十八になっていた。多くの友達は、知らない内に自分たちの道を見つけている。

それにただただ焦っている自分がいて、毎日不安が増していくような気がした。

そんな気持ちがあっただけか、私はこの本を読み始めた。

主人公は、それなりに良い大学を出て、それなりに良い会社に入っていたが、普通過ぎる自分に憤りを感じていた。

私は今、この学校で専門の技術を身に付けて、将来それを活かせる仕事に就けるかも知れない。

けれども、それは私が本当に望んでいる事なのだろうか。今学んでいる事と全く別の物であっても、本当に自分がやりたいと思う事を見つけない。実はそんな気持ちが強くなってきている事を、私はちゃんと知っていた。

この本で一番心に残っている課題がある。『やらずに後悔していることを今日から始める』ことである。人は皆、やりたいことをやっていたら幸せになれることを知っている。でも収入、世間体、不安、それらに縛られて結局諦めてしまうのだ。

つい先日、私は昔からの幼なじみで、今も同じ学校に通っている友達と、夢の話をした。

その子は前からやりたい事があるけれど、やはり、収入の面や親の反対などで悩んでいた。

そして実は私にも、興味はあるが諦めてしまっている、小さな憧れが存在した。

しかし今も尚、「自分には無理だ」という気持ちや周りの目を気にして、どうしても一歩踏み出せないでいる。そしてこれは、誰にも話していない。恥ずかしさがあるからだ。

私はこの先、どんな職に携わっているか分からない。この気持ちを「夢」に出来るかは私次第だ。

しかしどんな道を選ぼうとも、一度きりの人生なのだから、私は後悔しないように生きたいと思う。

これが私の今の夢だ。